

白藍塾オリジナル

2018入試小論文分析&解答のヒント

2018年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・総合政策学部

ここ数年は、統計データの扱い方が問われる問題だったが、今年度は「社会的選択」に関する問題が出題された。社会的選択の研究は、近年盛んになっているが、選挙の方法として単純多数決しか思い浮かばない人には、最初は何が問われているのかさえよくわからないかもしれない。まずは、「単純多数決以外にも、選択の方法はいろいろある」ということを、しっかりと認識する必要がある。その点さえクリアできれば、あとは必要な情報を資料の中からいかに要領よく取り出すかが問題となる。

6つの資料は、そうした様々な選択方法の適否について、論理的に検討している。例えば、資料1は決選投票付き多数決の、資料2と資料5は単純多数決の、資料3はペアごとの多数決の、資料6は順位評点法の問題点を、それぞれ指摘している。これらは、問2以下の問題に答える際の参考になるはずだ。

問1は、設問での各ルールの説明に従って計算すればよい。難しいところはないはずだ。

問2はルールの内容（多数型ルールかスコアリングルールか、選択肢は二択か三択以上か、投票回数は1回か複数回か、など）で分類するやり方もあるが、「票の割れに強いかわ弱いかわ」「最上位につけた人数が多い者と幅広く支持を集めた者のどちらが選ばれるか」などのルールの効果で分けることも、また両者を組み合わせてグループ化することもできる。いずれにせよ、これは問3の答えとも連動するので、よく考える必要がある。

問3は、5つのルールに対し、党首選のルールとして望ましい順に順位づけをすることが求められている。当然ながら、党首としての役割や望ましい資質、またそれで党内を納得させられるかどうかなどを考えた上で、それらを踏まえて順位づけをする必要がある。一例として、「党内の一部のみに強く支持されている人よりも、党内から幅広く支持を集めている人のほうが党内をまとめやすく、党のリーダーとしてふさわしい」と考えるのであれば、単純多数決と逐次消去法を下位にして、残りの3つを上位にするのが合理的だろう。あとは、資料を参考に、各方法の問題点も考慮しつつ、妥当と思える順位をつけるとよい（資料にない基準、例えば直観的なわかりやすさや民主的かどうかといった基準を補足しつつ論じても、もちろんかまわない）。

書き方は、対策問題やプレゼン問題の書き方を応用するとよい。第1部で、自分の考える順位

と、順位づけの主な基準（党首を決めるのに必要な基準）を示す。そして、第2部で他にも基準がありうることを説明した上で、第3部で、順位づけの理由について具体的に説明していくわけだ。

問4は、いわば応用編。あくまで「分析が可能な事例」を紹介するだけで、実際に分析することが求められているわけではないので、あまり考えすぎず、知っている事例を書けばよい。2016年のアメリカ大統領選で有権者全体の得票数では下回ったトランプが勝った事例とか、日本の小選挙区制の問題点（選挙区ごとの単純多数決に基づいているので、野党の候補者が票を奪い合っ、票の割れが起きやすい）など、少しでも時事的な問題に関心があれば、いくつか適切な事例を思いつくはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179） <https://www.hakuranjuku.co.jp>